令和４年度 （2022 年度）

学校関係者評価　報告書

学校法人巨樹の会
八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会　八千代リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会による令和４年度の評価結果を記したものである。

令和 5 年 7 月 7 日

学校長　　片山　薫

副学校長　野見山　通済（評価実施責任者）

＜目次＞

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
1）学校関係者評価の目的、方針
2）学校関係者評価委員
3）学校関係者評価委員会の開催
4）学校関係者評価の実施方法

2. 学校関係者評価の項目、内容
項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像
項目Ⅱ　学校運営
項目Ⅲ　教育活動
項目Ⅳ　学修成果
項目Ⅴ　学生支援
項目Ⅵ　教育環境
項目Ⅶ　学生の受け入れ、
項目Ⅷ　財務
項目Ⅸ　法令等の遵守
項目Ⅹ　社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1）学校関係者評価の目的、方針

① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。

② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。

③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2）学校関係者評価委員 （令和４年度）

※敬称略、◎印委員長

委員氏名	所　属	選出区分
◎ 市角　雄幸	習志野市市議会議員	地域委員
奥田　裕	帝京科学大学東京理学療法学科	評価経験委員
小林　誠	株式外社　WAKUWORK	卒業生委員
斉藤　剛史	新浦安　内科・脳神経内科クリニック	企業委員
田中　朋美	医療機関　作業療法士	企業委員
菊島　翔	千葉県立八千代東高等学校	高校委員

3）学校関係者評価委員会の開催

①学校運営状況の中間報告　日　時：令和４年 11 月 22 日（火）　郵送にて書面報告を実施

②委員会開催　日　時：令和５年３月　16 日（火）　18:30　～　20:30

場　所：八千代リハビリテーション学院　A 棟　会議室１

4）学校関係者評価の実施方法

令和 4 年度の学校自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

① 自己評価の結果および内容が適切かどうか

② 課題やその解決への方向性が適切かどうか

③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか

④ 学校の運営に関する助言、提言

2. 学校関係者評価の項目、内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による４段階の評定基準にて実施する。
学校関係者評価では、自己評価の評定が適正であるか審議を行い、あわせて学校運営に関する意見や提案を受けて検討する。

【評定基準】

Ｓ ： 十分に達成している。　（達成度が高い）
Ａ ： 達成している。　（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
Ｂ ： 達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
Ｃ ： 達成が不十分である。　（不適合がある、明らかに改善を要する）

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で公表して、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスなども公開しており、Web サイトでの情報閲覧が可能となっている。

課題

教育理念・目標等を反映した、改訂カリキュラムによる教育課程の構築、運用を図る。

今後の方向性、方策など

新カリキュラムへの移行４年目で夜間コースの旧カリキュラムの学生が卒業した。令和５年４月よりすべて新カリキュラムに切り替わる。教育理念・目的をより浸透できるよう周知していく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

「理念」「目的」といった言葉や概念自体に馴染みが無い学生が多いように感じる。
⇒そもそも論からしっかり教育が出来るように学生へわかりやすく周知していく。

小項目　Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正

■コメント：学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正

■コメント：ホームページ、パンフレット、学生募集要項等で、広く公表、周知している。また、定期的な高校訪問や病院・施設・実習指導者会議をおこない広く周知を行っている。

小項目　Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正

■コメント：教育課程編成・学校関係者評価などを通して、定期的に業界のニーズの把握と実践教育へ反映を図っている。また、産学連携協定を結ぶカマチグループ病院や協力企業との連携により、職業実践に求められる人材育成を行っている。

項目Ⅱ　学校運営

総括

令和５年度の入学定員増員に備えて、新校舎の建設および準備を行った。
また、運営方針に沿って、適正、円滑な学校運営を行い、卒業・進級はじめ、学生の修学への支障は生じていない。

課題

新しい学校の体制作り、環境整備など、円滑な学校運営を行うための準備、対応が求められる。

今後の方向性、方策など

学生管理・職員管理・広報管理など情報管理システムを導入し、学内の管理運営業務を DX 化して効率的に運営していく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

子供の数は減少傾向であり、少子化に対してどう対策するのか

⇒ 社会から見ると定員増を疑問視されることがある。しかし、医療現場では作業療法士の確保は必須であり、医療現場からの需要は非常に高い。オープンキャンパスやガイダンスを通して、作業療法士・理学療法士の明確な情報を提供して学生募集広報に繋げていきたい。

小項目　Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：運営会議、学科会議、各業務委員会等の組織を設置、定期開催のもと運営方針、目標、業務計画を教職員に周知して学校運営をすすめている。また、学校評価で実績や結果を確認して PDCA サイクルでの運営を推進し、次年度に反映している。本年度は令和 5 年度入学定員増に対応する学校運営を確認、準備を進めた。

小項目　Ⅱ－2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録、伝達・周知を確認している。情報管理システムの導入により、意思決定から周知まで遅滞なく行われている。

小項目　Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学事サーバーにより、学業成績等は随時、更新・管理するほか、学生連絡等にも活用。メンテナンス、セキュリティ管理のもと支障なく運用。・科目・講師・使用教室等の授業運営、職員の勤務体制や施設設備などの情報を管理するソフトにより効率的な業務をすすめている。

項目Ⅲ　教育活動

総括

卒業資格である国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。
臨床実習病院との連携を深め、コロナ禍でも実践的な臨床教育を行っている。
ディプロマポリシーに則り、更なる教育活動の向上に取り組む。

課題

養成施設指定規則改訂後の教育課程の実践について見直しを行う。また、授業評価結果の活用、教員個々の教育・指導力の育成を図る。

今後の方向性、方策など

令和 4 年度より診療参加型臨床実習を導入し、新たなカリキュラム、シラバスに基づき成績判定をルーブリックを用いて行い、その結果をもとに学校で総合的に実習の判定を行った。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

診療参加型実習（CCS）について、旧方式での実習、見学レベルの実習と差が大きい、どのようにしているのか。

→各実習病院からは CCS では難しいという声があるのは確かである。しかし全体的には臨床現場で臨機応変に対応して頂いた。今後は CCS での実習を臨床実習指導者により理解して実践して貰う必要がある。

小項目　Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：教育課程は教育理念や学校法人リハ学科カリキュラムをもとに、学校運営会議、学科会議等での審議を経て決定、運用する。本年度は PT・OT 養成施設指定規則改訂に伴う新たなカリキュラムを 1･2･3 年次に適用し運営を行った。令和 5 年度よりすべての学科、学年で新カリキュラムを適用する。

小項目　Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：産学連携協定を結ぶカマチグループ病院で臨床実習を概ね予定通り実施。コロナウイルス感染防止対策下での実践的なリハビリテーション教育を行った。
令和４年度より診療参加型臨床実習を導入し、新たなカリキュラム、シラバスに基づき成績判定をルーブリックを導入、それを元に学校で総合判定を行った。

小項目　Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学生による授業評価、教員間の授業評価を計画通り実施した。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等でも学外からの意見を伺った。それを集約、分析を行い教員へのフィードバックや次年度の授業運営へ活用を行った。

小項目　Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験受験資格に相応しい教育課程・体制を整備している。国家試験実地問題に対する臨床思考を臨床実習で学び、実習後の総合学習の単位取得と国家試験対策学習では模擬試験の実施も重ねて体系的な学修を進めた。卒業後も国家試験受験、資格取得のサポート体制を整えている。

小項目　Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：Ａ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：教員の実務力、教育力は人事考課とともに教務部長が評価して、専門技能や教育力向上を図っている。専門領域学会や研修会、教育力向上の研修などの受講を推奨、支援しているが、本年度も中止やオンラインでの開催による影響を受け、教職員の受講も限定的であった。

項目Ⅳ　学修成果

総括

進級・卒業、国家試験、就職・職業実践を目指す教育および修学支援を行い、理学療法学科作業療法学科ともに良好な学修ならびに就職率、国家試験合格率は両学科ともに 100%を達成した。

課題

全体的には留年や退学は減少しているが、友人関係の悩み、心理面でのサポートが必要な学生に対して、スクールカウンセラーの利用を含め、退学者の低減へ向けて更なる取り組みが必要である。

今後の方向性、方策など

学修成果が上がりにくい学生、心理面でのサポートが求められる学生などへの個別性を考慮したサポートを行っていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

ボランティアの参加からの学びは多いので、機会が増えることは良いことである。

→八千代市のニューリバーロードレース八千代に、理学療法学科昼間コース１年、作業療法学科昼間コース１年、理学療法学科夜間コース１年の学生全員と職員が大会運営ボランティアスタッフとして参加した。

小項目　Ⅳ－1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：グループ病院への就職支援ほか、多くの求人情報の掲示、就職説明会やセミナーなどの就職活動支援、面接指導、履歴書指導を行い、開校以来 17 年 100%の就職率が続いている。

小項目　Ⅳ－2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験を考慮した授業内容や学修方策、模擬試験実施、国家試験対策学習を行い、第 58 回理学療法士国家試験及び第 58 回作業療法士国家試験では、両学科とも合格率 100%を達成した。

小項目　Ⅳ－3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：モチベーション維持、成績や心理的要因でサポートが必要な学生への介入、保護者との連絡など、早期に速やかな対応を行うことで退学者は低減している。

小項目　Ⅳ－4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：Ａ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：ボランティアなどの社会的活動を把握して、実行委員会への参画など学校の支援体制を継続している。全国障害者スポーツ大会の車椅子バスケットボールの千葉県代表のサポートメンバーとして学生が参加し、チームが優勝している。

項目Ⅴ　学生支援

総括

クラス担任による修学支援や保護者との連携を密に行い、学生相談室でも対応して欠席や退学の低減につながっている。高等学校とはガイダンスやキャリア・進路支援などで連携を深め情報提供を行っている。

課題

モチベーション低下やストレス・精神的な不安を抱える学生へは、保護者への電話連絡、保護者も含めた面談を早期に効果的に行っている。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生へ関わる教職員、部門での統一した適切な対応を行う体制を明確にして継続していく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学生相談室の利用に抵抗がある場合があるので、どのように対策を立てているのか。

⇒　相談場所を職員室から遠い Ｂ 棟の一室にしたり、メールで相談室利用を直接申請できるようにしたりして、学生が利用しやすいようにプライバシーに配慮して実施している。

小項目　Ⅴ－1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：求人情報の受付管理と提供、就職説明会開催、履歴書作成や面接指導などを実施。グループ病院その他の医療機関ともに内定状況は良好。OT 学科 PT 学科ともに、17 年連続で就職率 100%を達成。

小項目　Ⅴ－2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：　教員の定期面談ほか、内容は個人情報保護に留意して共有、活用、速やかに対応する体制を整えている。臨床心理士による学生相談室を本年度、月 2 回開室。

小項目　Ⅴ－3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：連絡や面談等で連携を図り、就学や進級・卒業が懸念される場合は保護者同席で面談を行っている。緊急時の保護者への電話連絡及びメール連絡も行っている。

小項目　Ⅴ－4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：高校での進路ガイダンスや出前授業へ積極的に参加し、情報提供を行った。高校訪問を定期的に行い、高校の要望や相談を学校運営に反映させた。

小項目　Ⅴ－5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：寮などの生活面、奨学金窓口や特待生制度などの経済面も支援を行っている。理学療法学科　昼間コース、作業療法学科 昼間コースは教育訓練給付金制度が社会人入学者の支援になっている。また、令和 6 年度入学生からは、学費分納制度を実施予定。

項目Ⅵ　教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを毎年確認している。令和５年度の入学定員増に伴い、新校舎を増築し、大教室や実習室の整備を行った。また、設備、教材を指定規則に準じて整備を行った。

課題

入学定員増、校舎増築等による防災、危機管理体制の更新を行い、学生の避難を含む総合避難訓練は計画したが、感染状況を鑑みて訓練は中止となった。

今後の方向性、方策など

新しい教育環境の整備、防災・危機管理体制の整備を実施する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

増築も合ったので防災に対する体制の整備が新たに必要なのではないか。

⇒ 消防計画に則り、防火機器設備等の職員への周知を実施した。学生の避難を含む総合避難訓練は計画したが、感染状況を鑑みて中止となった。令和 5 年度には総合避難訓練を実施予定。

小項目　Ⅵ－1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：理学療法学科 昼間コースおよび夜間コースは、リハビリテーション教育評価機構の評価を受け認定されました。また、新校舎を増築し、大教室や実技が演習で使用する治療室を完備した。

小項目　Ⅵ－2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：グループ病院との産学連携協定、臨床実習シラバス、マニュアルに基づき臨床実習を実施した。また、本年度よりすべての実習を臨床参加型実習で行った。

小項目　Ⅵ－3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：B　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学校保健計画・安全計画には防災に関する内容を含めて運用したが、感染状況を鑑みて総合避難訓練は実施できなかった。新校舎の避難経路の周知を含め令和５年度に総合避難訓練を実施予定。

項目Ⅶ　学生の受け入れ、募集

総括

毎年、高等学校への進路・キャリア情報の提供に努めて多くの高校生の受験、入学実績がった。しかし今年度は定員増によって、作業療法学科昼間コースと理学療法学科夜間コースは定員を充足することは出来なかった。

課題

作業療法学科・理学療法学科 夜間コースの定員充足に向けた取り組みが必要。

今後の方向性、方策など

高等学校へは入学後の修学状況の報告など随時、的確な情報の伝達を行う。また、定員充足に向けて、高等学校の進路・キャリア支援との連携をより深めていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

作業療法学科、理学療法学科夜間コースの安定した定員充足に向けての取り組みはなにか。

⇒ 千葉県および近隣県を含め指定校を増やしていく。また、高校訪問の回数やガイダンスを積極的に増やし情報提供を行っていく。広報予算で WEB 広告の割合を増やし、自校ホームページに誘導し、資料請求・オープンキャンパスへの増員を目指す。

小項目　Ⅶ－1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学校ガイダンスや出前授業で進路案内や職業情報を適切に行なった。

進路室を定期的に訪問し、指定校の依頼やオープンキャンパス案内など、進路担当者との連携を行った。また、学校関係者評価では高校からの評価や意見を伺い、取組みを進めている。

小項目　Ⅶ－２

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：国家試験受験者、合格率、就職率などの情報をホームページ上で公開。広報媒体や学校案内には過年データ、資格取得支援の具体的内容、卒業後の資格取得支援まで説明。

項目Ⅷ　財務

総括

令和４年度の入学も全学科・課程で定員を満たす入学者があり、財務基盤は安定している。年度および中長期の学校運営計画に従い事業を推進して会計管理を行い、法人本部の確認のもとで適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

入学定員増員後も入学者確保を継続し、財務基盤を安定させる。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

監査はどのような方法で行っているのか。また、学校運営に関わる行政の監査はないのか。

⇒民間の会計士２名と法人総務１名で年１回の割合で経理監査を受けている。また、行政による監査はないが、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構より、リハビリテーション教育プログラムの公正かつ適正な評価を受け、審査の結果、一定の水準を満たしていると認定されている。

小項目　Ⅷ－１

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：事務部、運営会議、法人本部での中長期的な財政予測を行い、法人理事会、学校管理者会議で財政基盤の安定を確認。新たに学校運営中長期計画（６年分）を作成して法人から承認を得ている。

小項目　Ⅷ－２

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：学校法人および各校年度事業計画、根拠、予算案に基づき学校運営。妥当な収支計画のもと、予算執行、修正、会計処理を学校および法人の双方で随時確認している。本年度の予算執行、事業運営が支障なく行われており、令和４年度の収支も良好と法人本部でも確認されている。

小項目　Ⅷ－３

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：財務管理について報告とチェックを実施。定期的な法人本部からの会計管理、外部監査、理事会への報告も適切に実施している。

項目Ⅸ　法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価においても認められている。

令和４年度は理学療法学科が一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の第三者評価を受審し、認定を更新している。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指導ガイドラインに従い、教員要件に関する研修の受講やや教育上必要な機械器具等の整備を行っていく。

今後の方向性、方策など

入学定員増による教員の増員に伴い、専任教員の要件を満たしていない場合は専任教員養成講習会の受講を行っていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

特になし

小項目　Ⅸ－1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：自己点検、年度報告をHPで公開している。学校評価（自己評価、関係者評価）、教育課程編成委員会等でも、運営状況を確認し、第三者評価も受審して認定を得ている。本年度は理学療法学科が一般社団法人リハビリテーション教育評価構を受審し、認定を更新した。

小項目　Ⅸ－2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：個人情報保護規程に則り、電磁的管理のもと、適正に運用。個人情報含む媒体の持ち出しなど、情報漏洩リスクへの対策も実施。学事、実習指導など、学生も含めた個人情報保護の周知を図る。

項目Ｘ　社会貢献・地域貢献

総括

感染症対策下、地域や団体への施設提供や学院祭の公開講座などはなく、本年度はPT・OT協会の臨床実習指導者講習会への協力、高等学校進路授業での人材派遣などを行った。オンラインで開催される臨床実習指導者講習会への世話人の協力やニューリバーロードレース八千代の実行委員として教員が参画するなど、可能な協力を継続して行っている。

課題

コロナ禍後の社会貢献・地域貢献について、学校として考えて取り組んでいく必要がある。

今後の方向性、方策など

社会・地域貢献に関して、再開されるイベントへの対応、およびリモートやオンラインシステムの有効活用による貢献の在り方を検討する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

特になし

小項目　Ｘ－1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：理学療法士・作業療法士臨床実習指導者講習会は、オンラインシステムの提供と講師派遣を行い、学院を基地局会場として開催している。八千代市社会福祉協議会との災害時パートナーシップ協定に則り協力を行う。また、防災寺子屋へ職員の派遣を行った。

小項目　Ｘ－2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：**適正**

■コメント：本年度は、八千代市のニューリバーロードレースに１年生の学生全員と職員がボランティアスタッフとして参加した。例年、ボランティア活動を教職員・学生共に推奨して実施しているが、新型コロナウイルスの影響もあり中止となることが多かった。

3. 学校関係者評価の総括

令和４年度は、昨年度に引く続きコロナ禍の状況下での学校運営となったが、教育活動、進級率、国家試験合格率も両学科100%を達成するなど学修成果においても素晴らしい実績を残すことが出来ている。就職率100%の継続も評価できる。また、職業実践および人財育成につながる学校運営を期待する。

自己評価の適正について

1）自己評価の内容は適正である。
2）各評価項目の内容は適正に記載されている。
3）自己評価の内容は根拠資料から確認できる。
4）自己評価、学校関係者評価が学校運営に反映されている。

以上より、学校関係者評価において、自己評価ならびに学校運営は適正と評価する。

4. 学校運営に関する意見

・学生に関する数字が圧倒的であり、驚いている。昨今の学生は、理念・目的になじみのない学生が多いと思われるので、入学時の提示などが必要であると感じる。

・高校生にとってはどのような活動・実習をしているかが重要である。コロナ感染症により限られている部分はあると思うが、どのような実習・授業をしているかを今後しっかりアピールして頂きたい。

・数字が素晴らしい。次年度から増員となるため、いろいろ苦労が増えると思うが、また良い数字が見られることを期待している。

・国家試験合格率が素晴らしい。グループ病院だからできる取り組みもあると思うので、その取り組みの工夫などまた聞かせていただきたい。

・学校運営に関しては全体的にうまくっているようであるが、来年度の増員により変わっていく可能性がある。よりグループ病院との連携を強化していくこと、学生に対する教員の関りが重要になると思う。自己点検評価の声を受け止めフィードバックをすることにより、一人ひとりの意識付けになると思うので、可視化していくと良い。

・令和４年度学校運営重点目標の年度評価の各項目に関して、委員会より、3.教育活動の充実 5）教育の教育力向上への取り組み（A-2）、6. 教育環境の整備　3）防災体制の整備（A-1）、7.学生募集、入学生確保の強化　2）入学生確保に向けた方策（A-1）について意見を伝える。

以上

（文責　学校評価実施責任者　野見山通済）